

官
佛
蘭
西
法
律
書
訴
訟
法
七

CF2
3
07

館書圖京東	
函四一	門新
架二	部一一
號六九九四	類

共八本

明治七年四月刊行

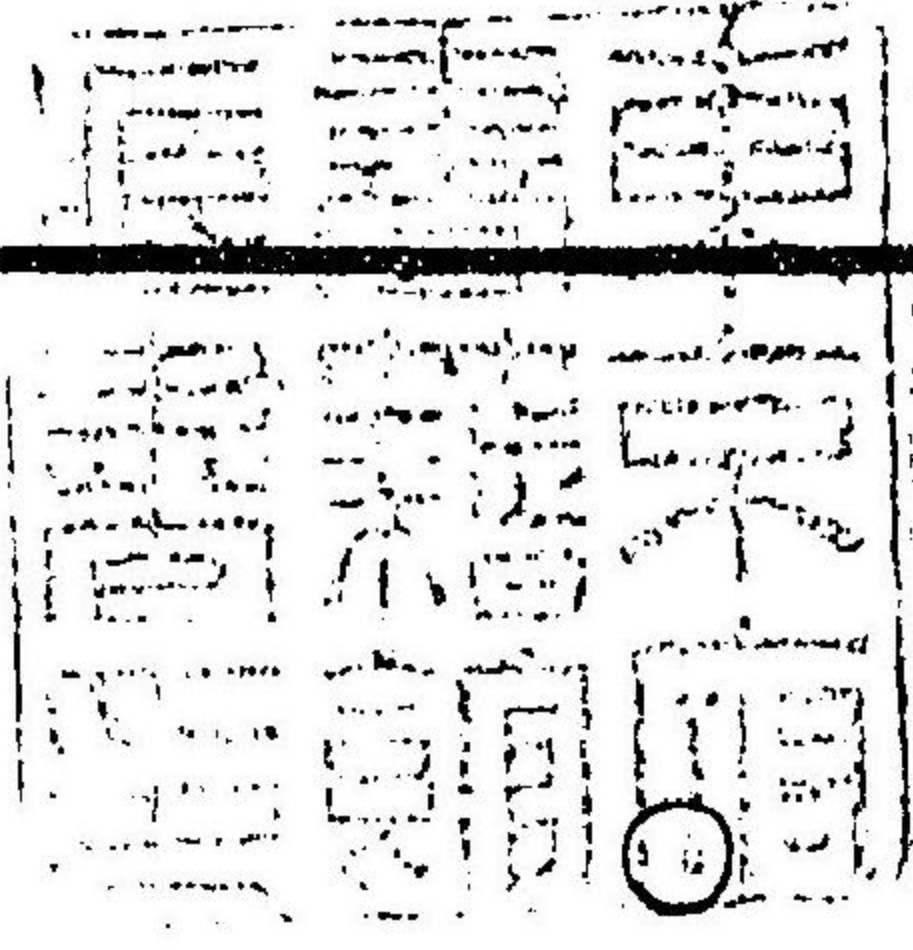
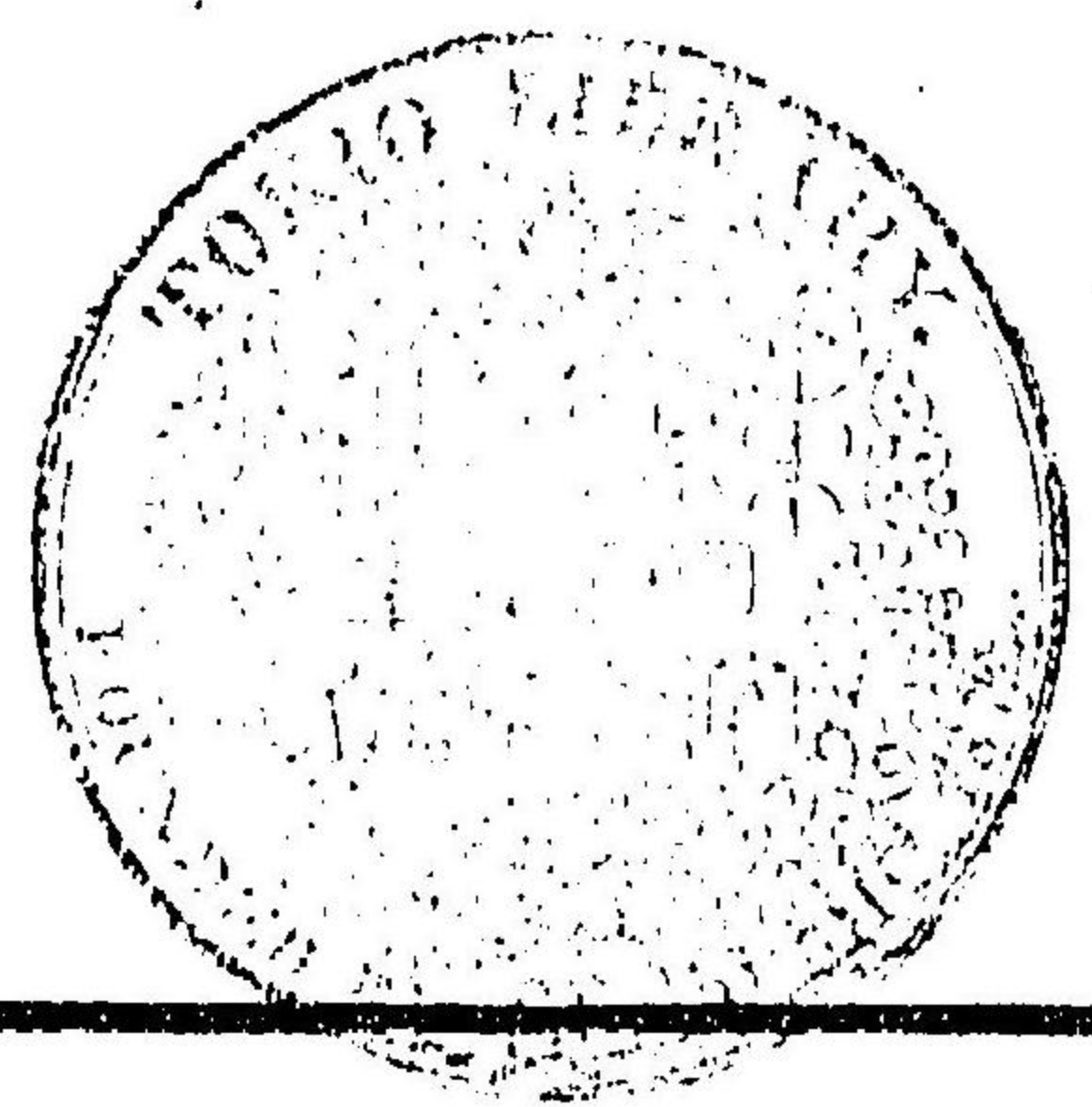
權大内史箕作麟祥譯

第七卷

仏蘭西 法律書 訴訟法

文部省

CF 507



佛蘭西法律書 訴訟法第七

權大内史箕作麟祥 譯

明治九年文部省發行

○下篇 種々ノ訴訟手續

○第一卷 一千八百六十六年四月二十二日決定

五月二日布告

○第一章 負債者債主ニ其債ノ償還セ

ント提供スル事及ヒ其借高ヲ官署ニ預クル事

佛蘭西法律書

下篇第一卷第一章

一 七 那 自

明治七年四月刊行

權大内史箕作麟祥譯

第七卷

佛蘭西
法律書
訴訟法

文部省

CF2
3
07



佛蘭西
法律書
訴訟法第七

權大内史箕作麟祥 譯

明治九年文部省發行

○下篇 種々の訴訟手續

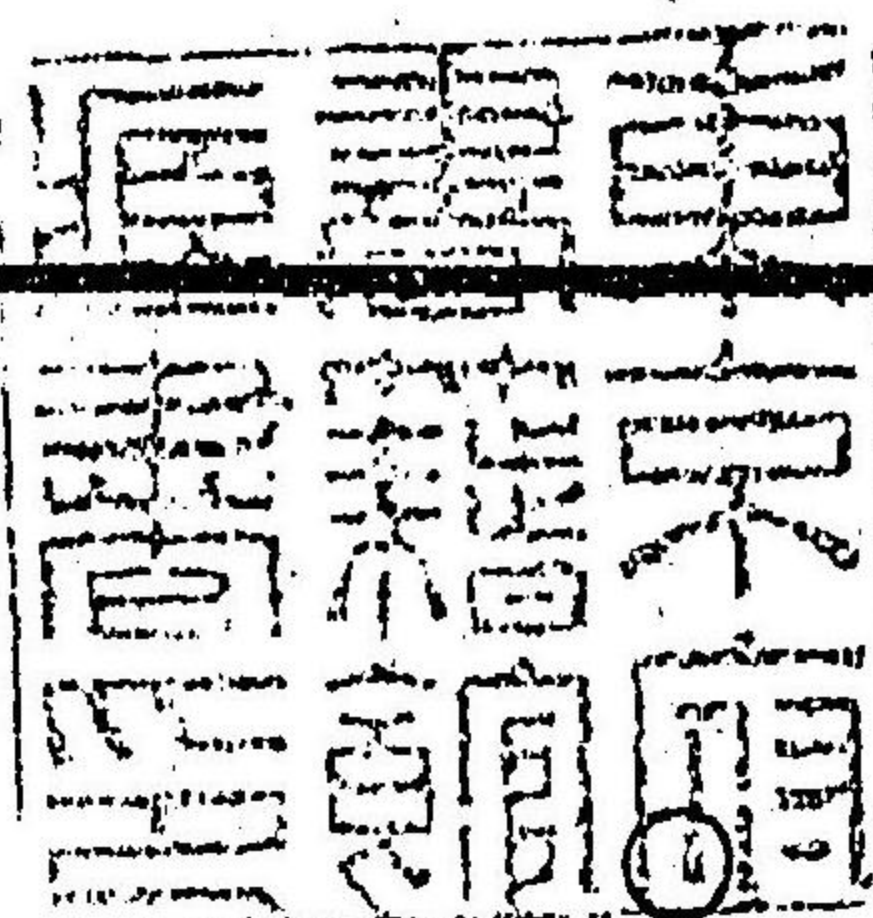
第一卷 一千八百六十六年四月二十二日決定

五月二日布告

○第一章 負債者債主ニ其債ヲ償還セ

ント提供スル事及ヒ其借高ヲ官署

ニ預クル事



佛蘭西法律書

下篇第一卷第一章

一 七 部 官

第八百十二條 負債者債主ニ其債ヲ償還セン
 ト提供スル調書ニハ其提供スル品物ヲ詳カ
 ニ記シテ他物ヲ代用スルヲナカラシム可シ
 若シ又度量ス可キ物ノ金銀穀物飲料ヲ提供ス
 ル時ハ其度量シタル高ト其性質トヲ記ス可
 シ

第八百十三條 同上ノ調書ニハ債主負債者ノ
 提供シタル品物又ハ金高ヲ受取ルヲ承諾
 シタルヤ又ハ是ヲ承諾セサルヤノ答書ヲ記
 入シ且債主其答書ニ姓名ヲ手署シタルヤ又

ハ手署スルヲ肯セサルヤ又ハ手署スルヲ
 知ラスト述ヘタルヤヲ附記ス可シ

第八百十四條 若シ債主負債者ノ提供シタル
 品物又ハ金高ヲ受取ルヲ承諾セサル時ハ
 負債者其義務ヲ免ル、為メ民法第千二百五
 十九條ニ記シタル法式ニ従ヒ其提供シタル
 品物又ハ金高ヲ官署ニ預クルヲ得可シ

第八百十五條 提供シタル事又ハ官署ニ預ケ
 タル事ノ法ニ適シタル言渡ヲ得ントスル訴
 又ハ此等ノ事ノ効ナカル可シトノ言渡ヲ得

ントスル訴ハ主タル訴ヲ為スノ法式ヲ以テ之ヲ為ス可シ若シ此等ノ訴附帶ノ訴タル時ハ願書ヲ以テ之ヲ為ス可シ

第八百十六條 提供シタル物件ヲ未タ官署ニ預ケサル時提供ノ法ニ適シタルヲ定ムル言渡書ニハ若シ債主其提供シタル物件ヲ受取ルルヲ肯セサルニ於テハ其物件ヲ官署ニ預ク可キヲ附記ス可ク且其言渡書ニハ其物件ヲ官署ニ預ケタル日ヨリ以來債ノ息銀ヲ出ス可キ義務ノ止タルヲモ亦附記ス可シ

第八百十七條 負債者其意ニ因リ又ハ裁判所ノ言渡ニ因リ其債ヲ償還スル為メ物件ヲ官署ニ預クル前ニ其債主ノ債主其物件ヲ負債者ヨリ其債主ニ渡ス可カラサルノ故障ヲ述ハタル時ハ負債者其故障ヲ受ケタル儘ニテ之ヲ官署ニ預ケ且其故障ノ旨ヲ其債主ニ報告ス可シ

第八百十八條 提供及ヒ官署ニ預クルヲ付キ前數條ニ記シタルヨリ以外ノ事ハ民法ヲ以テ之ヲ定ム民法第千二百五十七條以下見合

○第二章 土地又ハ家屋ノ所有者其借主ノ動産並ニ收納物ヲ質トシテ差押フル事及ヒ他ノ地ヨリ来レル負債者ノ動産ヲ質トシテ差押フル事

第八百十九條 土地又ハ家屋ノ所有者ハ貸貸ノ證書ノ有無ヲ問ハス既ニ拂期限ニ至リシ貸賃ヲ得ルノ質物トシテ家屋又ハ農業ノ為メ設ケタル建物ノ中又ハ土地ノ中ニ在ル借主ノ動産並ニ收納物ヲ差押フルヲ得可シ但シ此差押ヲ為スニハ先ツ要決ノ書ヲ送り

其翌日ニ至リ別ニ裁判役ノ允許ヲ得スニテ之ヲ為スヲ得可シ又土地及ヒ家屋ノ所有者ヨリ之ヲ借受ケタル者其下タ貸ヲ為シタル時ハ其下タ借ヲ為シタル者ノ動産及ヒ收納物ヲ差押フレヲ亦同様ナリトス

又其所有者及ヒ下タ貸ヲ為シタル者ハ初告裁判所ノ上席人ニ願書ヲ出シ其允許ヲ得タル上ニテ別ニ要決ノ書ヲ送ラス直ニ其動産又ハ收納物ヲ差押フルヲ得可シ

又此等ノ者ハ借主己レノ承諾ヲ得スニテ其

家屋又ハ土地ニ具ヘタル動産ヲ他所ニ搬運
 スル時ハ其動産ヲ差押フルヲ得可ク且民
 法第千二百二條ニ循ヒ其他所ニ搬運シタル
 動産他人ノ手ニアルヲ取戻サント訴フル時
 ハ其動産ヲ質トシテ他ノ債主ヨリ先キニ償
 ヲ得可キノ特權ヲ有ス可シ

第八百二十條 家屋又ハ土地ノ所有者ハ其借
 受ケ人借賃ヲ拂ハサル時其償ヲ得シカ為メ
 下々借ヲ為シタル者ノ其借リ受ケタル家屋
 又ハ土地ニ具ヘタル動産又ハ收納物ヲ質ト

シテ差押フルヲ得可シ但シ其下々借ヲ為
 シタル者ハ既ニ正シク其借賃ヲ拂ヒタルノ
 證ヲ立ツル時ハ其差押ヲ免ル、
 一ヲ得可シ
 一ト雖モ契約ニ依ラス借賃ヲ前拂ニ為シタル
 一ヲ述ヘ其差押ヲ免ル、
 一ヲ得ス
 民法第百五十三
 條見

第八百二十一條 貸賃ノ償ヲ得可キ質トシテ
 動産ヲ差押フル事ハ負債ノ抵償トシテ動産
 ヲ差押フルト同様ノ法式ニ從フ可ク且其差
 押ヲ受ケタル者ヲ其動産ノ預リ人ト為ス

ヲ得可シ若シ又取納物ヲ差押フル時ハ前卷
第九章ノ規則ニ循フ可シ

第八百二十二條 凡ソ債主ハ其債ノ證書ヲ有
セサル時ト雖モ初告裁判所ノ上席人又ハ治
安裁判役ノ允許ヲ得タル上別ニ要決ノ書ヲ
送ルニ及ハスシテ他ノ地ヨリ来レル負債者
ニ属スル其邑内ニ在ル動産ヲ差押フルヲ
得可シ

第八百二十三條 其差押ハタル動産其差押ヲ
為シタル者ノ手元ニアル時ハ其者自カラ其

預リ人ヲ定ム可シ

第八百二十四條 此章ニ記スル差押ノ法ニ適
シタル言渡ヲ得タル上ニ非レハ其差押ヘタ
ル動産ヲ賣拂フ可カラス○第八百二十一條
ノ場合ニ於テハ差押ヲ受ケタル者又第八百
二十三條ノ場合ニ於テハ差押ヲ為シタル者
又別ニ預リ人ヲ定メタル時ハ其預リ人必ス
其預ル所ノ動産ヲ引渡ス可シ若シ之ヲ引渡
サ、ルニ於テハ禁錮ヲ受ク可シ

第八百二十五條 其他ノ諸件ニ付テハ動産ヲ

抵償トシテ差押ル事及ヒ其動産ノ賣拂ニ因
リ得タル代金ヲ債主數人ニ分派スル事ノ為
メ上篇ニ記シタル所ニ循フ可シ

○第三章 自己ノ所有ナリト述フル動
産他人ノ手ニ在ルヲ取戻サントス
ル為メ之ヲ差押フル事

第八百二十六條 自己ノ所有ナリト述フル動
産他人ノ手ニ在ルヲ取戻サントスル為メ之
ヲ差押ントスル者ハ先ツ初告裁判所ノ上席
人ニ願書ヲ差出レ其上席人ノ之ヲ允許スル

言渡ヲ得タル上ニ非レハ其差押ヲ為ス可カ
ラス若シ其願書ヲ差出シテ允許ヲ得タルコ
トナク其差押ヲ為シタル時ハ之ヲ為シタル本
人並ニ使吏其相手方本人ニ損失ノ償ヲ為ス
可シ

第八百二十七條 前條ノ差押ヲ為ス可キ允許
ヲ得ントスル願書ニハ其差押ントスル動産
ヲ簡略ニ記載ス可シ

第八百二十八條 裁判役ハ法律上ニ定メタル
祭日ト雖モ同上ノ動産差押ヲ為スコトヲ許ル

スヲ得可シ

第八百二十九條 一方ノ者他人ノ所有スル動
 産ヲ已レノ所有ナリト述ヘテ之ヲ取戻ス可
 キ為メ差押ヲ為サントスル時現ニ之ヲ有ス
 ル者其門戸ヲ開クヲ肯セス又ハ其差押ヲ
 承諾セサル時ハ其旨ヲ初告裁判所ノ上席人
 ニ訴ヘ至急吟味ノ法式ヲ以テ其裁判ヲ受ク
 可レ但レ其吟味ノ間ハ差押ヲ猶豫ス可シト
 雖モ其差押ヲ為サントスル者其門戸ノ前ニ
 番人ヲ附ケ置ク可シ

第八百三十條 此章ニ記シタル動産差押ヲ為

スノ法式ハ上篇第八章ニ記シタル所ノ動産
 差押ヲ為ス時ト同一タル可シ

第八百三十一條 此章ニ記シタル動産差押ノ

法ニ適シタルトノ言渡ヲ得ントスル訴ハ其
 差押ヲ受クル者ノ住所ノ地ヲ管轄スル初告
 裁判所ニ申出ス可シ若シ又既ニ為レタル主
 タル訴ヲ為サントスル時ハ此迄其主タル訴
 訟ヲ吟味スル裁判所ニ其訴ヲ申出ス可シ

○第四章 負債者其債ヲ償フカ為メ其

不動産ヲ賣拂フタル時債主更ニ高價ニ之ヲ賣拂ハントスルタメ再ヒ之ヲ糶賣ニ為ス事

第八百三十二條 民法第二百百八十三條ニ記シタル如ク負債者ノ不動産ヲ買入レタル者ヨリ其賣主ノ債主ニ送達ス可キ報告書並ニ民法第二百百八十五條ニ記シタル如ク其債主同上ノ不動産ヲ更ニ高價ニ賣拂ハシカ為メ再ヒ之ヲ糶賣ニ為ス事ヲ訴フル旨ヲ其不動産買入人ニ報告スル書面ハ別段之ヲ相達

スル使吏ヲ任ス可キヲ初告裁判所ノ上席人ニ願フタル上其上席人其使吏ヲ任ス可シ但シ其二通ノ報告書ニハ買入人及ヒ債主更ニ高價ニ賣ル可キ為メ再度糶賣ニ為サントスル訴ヲ為ス裁判所ニ於テ代書師ニ任シタル旨ヲ附記ス可シ又債主其負債者ノ賣リ拂フタル不動産ヲ再ヒ糶賣ニ為スヲ訴フル旨ヲ其買入人ニ報告スル書面ニハ其訴ヲ為ス債主ノ立ントスル保證人ノ姓名住所ヲ附記シ且ツ其買入人

ラシテ其保證人ヲ承諾セシムル為メ三日内ニ其買入人ヲ裁判所ニ呼出ス旨ヲ附記ス可シ但シ其買入人其保證人ヲ承諾セサル時ハ急速吟味ノ法式ヲ以テ其裁判ヲ為ス可シ○債主ヨリ不動産ノ買入人ニ送達スル同上ノ書面ハ其買入人ノ代書師ノ住所ニ送達シ且同上ノ保證人再度ノ糶賣ヲ訴フル債主ノ保證ヲ為ス可キ旨ヲ述フル書面ノ寫ト其保證人其保證スル所ノ金高ヲ償ヒ得可キ産業ヲ有スル證書ヲ裁判所ノ書記局ニ差出シタル

旨ヲ記セシ書面ノ寫トヲ前ニ記シタル書面ニ添ヘテ買入人ノ代書師ニ送達ス可シ再度ノ糶賣ヲ為サント訴フル債主民法第二千四十一條ニ循ヒ保證人ヲ立ルヲ能ハサル時保證ノ為メ金高ヲ官署ニ預ケ又ハ國債ノ證券ヲ官署ニ預ケタル時ハ前項ニ記シタル買入人ニ送達スル報告書ト共ニ其金高又ハ國債ノ證券ヲ官署ニ預ケタル證書ノ寫ヲ送達ス可シ
不動産ノ買入人債主ノ立タル保證人ヲ承諾

セサル旨ヲ申述ハ裁判所ニテ其申述ノ如ク
 允許レタル時ハ債主再度ノ糶賣ヲ為サント
 スル訴ノ効ナク買入人其不動産ヲ己ニ保有
 ス可レ但シ此迄再度ノ糶賣ヲ訴ヘタル者ヨ
 リ更ニ他ノ債主別ニ其再度ノ糶賣ヲ訴ヘタ
 ル時ハ格別ナリトス

第八百三十三條 債主中ノ一人前條ニ記シタ
 ル如ク負債者ノ不動産買入人ヲ裁判所ニ呼
 出ス旨ト其不動産ヲ再度糶賣ニ為ス旨トヲ
 記シタル書面ヲ其買入人ニ送達シタル時其

再度ノ糶賣ヲ訴フル債主又ハ不動産ノ買入
 人其訴ヨリ一月内ニ再度ノ糶賣ノ手續ヲ為
 ストヲ怠ルニ於テハ自己ノ權利ヲ書入質役
 所ノ簿冊ニ記入シタル債主等是訴ヲ為シタ
 ル債主ノ權ニ代テ再度ノ糶賣ノ手續ヲ為ス
 トヲ訴フルヲ得可レ但レ其權ニ代ル訴ヲ為
 サントスルニハ是迄再度ノ糶賣ヲ訴ヘタル
 者ヨリ更ニ他ノ債主其糶賣ノ訴ニ干涉スル
 願書ヲ出シ其願書ヲ其債主ノ代書師ヨリ
 是迄訴ヲ為シタル債主ノ代書師ニ送達セン

ム可シ

又再度ノ糶賣ヲ為サント訴ヘタル債主陰ニ
 負債者又買入人ト謀テ私曲ヲ為スル時
 又ハ其債主ニ詭偽懈怠アル時ハ自己ノ權利
 ノ書入質役所ノ簿冊ニ記入シタル債主等是
 迄訴ヲ為セシ債主ノ權ニ代テ糶賣ノ手續ヲ
 為サント訴フルヲ得可シ
 前ニ記シタル數箇ノ場合ニ於テ是迄再度ノ
 糶賣ノ訴ヲ為シタルヨリ更ニ他ノ債主是迄
 訴ヲ為セシ債主ノ權ニ代テ糶賣ノ手續キテ

為スト雖モ再度ノ糶賣ノ時ニ至リ別ニ買入
 ントスル者ナキ時ハ是迄訴ヲ為セシ債主其
 不動産買入ヲ自カラ擔當ス可シ但シ其債主
 ノ嘗テ立タル保證人ハ猶其保證ノ義ヲ免ル
 、トヲ得ス

第八百三十四條 〔千八百五十五年三月二十三
 日廢ス〕民法第千二百二十三條第千二百二十
 七條第千二百二十八條ニ記ス所ニ循ヒ書入
 質ノ權ヲ有スル債主其引當ト為シタル不動
 產賣拂ノ前ニ自己ノ權利ヲ書入質役所ノ簿

冊ニ記入スルヲナキ時ハ其賣拂ヨリ後ニ至
 リ其賣拂ノ證書ヲ其役所ノ簿冊ニ登記シタ
 ルヨリ遅クトモ十五日内ニ其債主己ノ權利
 ヲ其役所ノ簿冊ニ記入シタル證ヲ立テサレ
 ハ民法第三篇第十八卷第八章ニ記スル所ニ
 循ヒ不動産ヲ再度ノ糶賣ニ為ス可キヲ訴
 フルヲ許サス
 又不動産ニ付キ特權ヲ有スル債主ニ付テモ
 亦前項ニ記スル所ト同一ナリトス但レ此規
 則ヲ以テ民法第二千百八條及ヒ第二千百九

條ニ因リ不動産ノ賣主又ハ遺物相續人ノ得
 可キ權利ヲ害スルヲナカル可レ

第八百三十五條 前條ノ場合ニ於テ不動産ノ

買入人ハ其買入ノ旨ヲ役所ノ簿冊ニ登記レ
 タル後ニ自己ノ書質ノ權利ヲ役所ノ簿冊ニ
 記入セシ債主等ニ民法第二千百八十三條及
 ヒ第二千百八十四條ニ記シタル報告ヲ為ス
 ニ及ハス又如何ナル場合ニ於テモ此等ノ債
 主法式ニ循ヒ定期内ニ再度ノ糶賣ヲ為スヲ
 求メサル時ハ不動産買入人民法第二千百八

十六條ニ循ヒ其代金ヲ拂フノミノ義務アリトス

第八百三十六條 民法第二百八十七條ニ記シタル如ク再度ノ糶賣ヲ為スニハ其手續ヲ為ス債主左件ヲ記シタル貼附書ヲ刊刷セシム可シ

第一 不動産賣拂

糶賣ト混同ノ證書ノ日

附及ヒ大趣旨若シ又不動産ヲ交換シ又

贈遺ト為シタル時ハ其交換又ハ贈遺ノ證書ノ日附及ヒ大趣旨並ニ此等ノ證

書ノ立合ヲ為シタル證書人ノ姓名及ヒ其他其證書ヲ記スルニ管シタル官吏ノ姓名

第二 不動産ヲ賣拂フタル價高若シ不動産ヲ交換シ又ハ贈遺ト為シタル時ハ嘗テ債主等ニ送リタル報告書ニ記セシ其不動産ノ價ノ積リ高

第三 糶賣ヲ為スニ付キ債主ノ附ケ直段第四 不動産ノ以前ノ所有者ノ姓名職業住所買入人又ハ交換或ハ贈遺ニ因リ得

タル者、姓名、職業住所是迄糶賣、手續ヲ為ス債主、姓名、職業住所若シ又他、債主第八百三十三條ニ循ヒ其糶賣ヲ為ス債主ノ權ニ代リタル時、其代テ糶賣ノ手續ヲ為ス債主、姓名、職業住所第五糶賣ニ為ス不動産、種類並ニ其位置第六糶賣ノ手續ヲ為ス債主、代書師、姓名、居所第七糶賣ヲ訴ヘ出シタル裁判所並ニ其

糶賣ヲ為ス場所及ヒ日刻此等ノ諸件ヲ記シタル貼附書ハ糶賣ヲ為スヨリ少クトモ十五日前多クトモ三十日前ニ嘗テ其不動産ノ所有セシ負債者ノ住所ノ門ト第六百九十九條ニ記シタル場所トニ之ヲ貼附ス可シ
同上ノ期限内ニ第六百九十六條ニ記シタル新聞紙ニ右ノ諸件ヲ記入シ且第六百九十八條及ヒ第六百九十九條ニ記シタル如ク貼附ヲ為シタルト新聞紙ニ記入シタルト

證ス可シ

第八百三十七條 糶賣ノ手續ヲ為ス債主ハ糶賣ヲ為スヨリ少クトモ十五日前多クトモ三十日前ニ嘗テ不動産ヲ所有セシ負債者並ニ其買入人ニ定マリタル日刻ニ其糶賣ノ場所ニ來テ立會ヲ為ス可キノ呼出狀ヲ送達ス可シ○又不動産ノ買入人又ハ交換或ハ贈遺ニ因リ之ヲ得タル者其糶賣ノ手續ヲ為シタル時又ハ是迄其糶賣ノ手續ヲ為シタル者ニ代テ他ノ債主糶賣ノ手續ヲ為シタル時ハ此等

ノ者ヨリ是迄其糶賣ノ手續ヲ為セシ債主ニ全上ノ呼出狀ヲ送達ス可シ

又同上ノ定期内ニ不動産ノ買入人又ハ交換或ハ贈遺ニ因リ之ヲ得タル者ハ其買入レノ證書又ハ交換或ハ贈遺ノ證書ヲ裁判所ノ書記局ニ納メ其證書ヲ以テ糶賣ノ言渡書ニ換用ス可シ

其糶賣ヲ訴ヘタル債主ノ附ケ直殺ヲ以テ糶賣ノ附ケ直殺ト為ス可シ

第八百三十八條 一千八百五十八年五月二十一

日左ノ如ク改ム) 不動産糶賣ヲ訴ヘタル債主
 ハ自カラ其糶賣ノ手續ヲ為レタルト他ノ債
 主之ニ代テ其手續ヲ為レタルトヲ問ハス其
 糶賣ノ為メ定メタル日ニ更ニ高價ニテ買入
 ントスル者、出テ来ラサル時ハ自カラ其不
 動産ヲ買入ル可シ
 其糶賣ニ付テハ第七百一條第七百二條第七
 百五條第七百六條第七百七條第七百十二條
 第七百十三條第七百十七條第七百三十一條
 第七百三十二條第七百三十三條ノ規則ヲ通

シ用ヒ且糶賣ノ時直段ヲ附ケタル者即時ニ
 其代金ヲ拂フヲ能ハサル時ハ其者ノ引請ニ
 テ更ニ糶賣ヲ為サシムルニ付テノ第七百三
 十四條以下ノ規則ヲ通シ用フ可シ
 第七百五條第七百六條第八百三十二條第八
 百三十六條第八百三十七條ノ法式ハ必ス之
 ニ循フ可シ若シ之ニ背ク時ハ其數條ニ記ス
 ル諸件ノ効ナカル可シ
 債主ノ糶賣ヲ為サント訴フル書面ヲ取消サ
 ントスル訴ヘ及ヒ債主買入ヲシテ其保證

人ヲ承諾セシムル為メ其買入人ヲ呼出ス呼
 出狀ヲ取消サントスル訴ハ保證人ヲ承諾ス
 可キト否トヲ裁判スル言渡ノ前ニ必ス之ヲ
 為シ又糶賣ヲ為ス法式ヲ取消サントスル訴
 ハ再度ノ糶賣ヨリ少クトモ三日前ニ必ス之
 ヲ為ス可シ○其糶賣ヲ訴フル書面ヲ取消サ
 ントスル訴及ヒ債主ノ保證人承諾ノ事ニ付
 キ買入人ニ送達スル呼出狀ヲ取消サントス
 ル訴ハ其保證人ヲ承諾ス可キト否トヲ裁判
 スル言渡ト共ニ之ヲ裁判シ又糶賣ヲ為ス法式

ヲ取消サントスル訴ハ其糶賣ノ前ニ之ヲ裁
 判シ成可キ丈ハ其糶賣ノ言渡ト共ニ其訴ヲ
 裁判ス可シ

負債者ノ賣拂ヲタル不動産ヲ債主更ニ糶賣
 ト為サントスルヲニ付キ一方ノ者抗傳レテ
 受ケタル裁判言渡ハ後ニ其故障ヲ裁判所ニ
 訴フ可カラス
 不動産ノ買入人債主ノ立テタル保證人ヲ承
 諾ス可キト否トヲ裁判スル前ノ手續ヲ取消
 サントスル訴ニ付テノ裁判言渡及ヒ其保證

人ヲ承諾ス可キト否トヲ定ムル裁判言渡並ニ糶賣ノ訴ヲ為シタル債主陰ニ負債者又ハ不動産買入人ト謀テ私曲ヲ為シタル時又ハ其債主ニ詭偽アル時他ノ債主其債主ニ代テ糶賣ノ手續ヲ為サントスル訴ヲ裁判スル言渡ハ之ヲ控訴スルコトヲ得可ク糶賣ニ付テノ其他ノ裁判言渡ハ之ヲ控訴スルコトヲ許サス

負債者ノ賣拂ヲタル不動産ヲ債主糶賣ニ為シテ之ヲ買入ル者アル時又ハ其債主自カラ之ヲ買入レタル時ハ更ニ之ヲ糶賣ニ為ス

可カラス

負債者ノ賣拂ヲタル不動産ヲ債主糶賣ニ為シ之ヲ買入レタル者アル時ハ其以前ノ賣主ト新ナル買入人トニ付キ第七百十七條ノ規則ニ循ヒ其効ヲ定ム可シ但レ其糶賣ノ言渡ノ後其不動産ニ付テノ法律上ノ書入質ノ權ノ記入ヲ未タ滌掃セサル時ハ隨意ノ賣拂ノ時ノ如ク之ヲ滌掃ス可シ且法律上ノ書入質ノ權利ヲ有スル債主ノ權ハ第七百七十二條ノ終項ニ記シタル如ク處置ス可シ

○第五章 證書類ノ寫書ヲ得ル手續又ハ證書類ヲ更改セシムル手續

第八百三十九條 證書人又ハ其他證書ノ簿冊ヲ預ル者其證書ニ管係アル本人又ハ其遺物相續人又ハ其代權人ニ其證書ノ寫書ヲ渡スルヲ肯セサル時ハ其寫書ヲ得ント願フ者初告裁判所ノ上席人ノ允許ヲ得タルト別ニ勸解ノ式ヲ行フトナク急速ニ其預リ人ノ裁判所ニ呼出レ其預リ人其寫書ヲ渡スルヲ肯セサルノ道理ナキ時ハ之ヲ渡ス可キノ言渡ヲ受

ケ猶之ヲ肯セサルニ於テハ禁錮ヲ受ク可シ
第八百四十條 前條ノ裁判ヲ為スニハ急速吟味ノ法式ヲ用フ可ク且抗傳者故障ヲ申立テ又ハ負訴訟ノ者控訴ヲ為スニ管セス其裁判言渡ノ如ク執行ヲ可シ

第八百四十一條 官署ノ簿冊ニ記セサル證書ノ寫書又ハ完全セサル證書ノ寫書ヲ得ント欲スル者ハ初告裁判所ノ上席人ニ其願書ヲ差出ス可シ但シ此場合ニ於テハ證書類ヲ簿冊ニ登記スルニ付テノ別段ノ規則ノ如ク執

行フ可シ

第八百四十二條 別段ノ道理アル時ハ前條ニ
 記シタル願書ノ末ニ裁判所ノ上席人ノ言渡
 ヲ附記シ其言渡ニ從ヒ證書ノ寫書ヲ渡ス可
 シ且此場合ニ於テハ渡シタル寫書ノ末ニ其
 旨ヲ附記ス可シ

第八百四十三條 前條ノ場合ニ於テ証書人又
 ハ證書ノ預リ人寫書ヲ渡スコトヲ肯セサル時
 ハ之ヲ初告裁判所ノ上席人ニ訴出シ至急吟
 味ノ法式ヲ以テ裁判ヲ受ク可シ

第八百四十四條 證書類最初ノ寫書此寫書ヲ以テ證ト

為シ債主其負債者ノ財産ヲ差
 押フルヲ得可キモノヲ云フ差ヲ失フタルニ

因リ更ニ其寫書ヲ得ニト欲スル者又ハ嘗テ
 受取リタル寫書ヲ納メ更ニ他ノ寫書ヲ得シ
 ト欲スル者ハ初告裁判所ノ上席人ニ其旨ヲ
 願フ書面ヲ差出ス可シ○此願ヲ為ス者ハ裁
 判所ノ上席人ノ允許ヲ得タル上ニ元定マリ
 日刻ニ其再度ノ寫書ヲ渡ス可キコトヲ證書人
 ニ要メ且其證書ニ管スル者ニ其寫書ヲ渡ス
 時立會ヲ為ス可キノ要ヲ為ス可シ但シ再度

ノ寫書ニハ裁判所上席人ノ言渡ノ旨ヲ附記
シ若シ負債者既ニ其債ノ一部ヲ還シタル時
ハ其殘高ヲ附記シ又ハ債主其代金ノ一部ヲ
他人ニ譲リ與ハタル時ハ其譲リ與ハタル貸
金ノ高ヲ附記ス可シ

第八百四十五條 前條ノ寫書ヲ渡ストニ付キ
争ノ起ル時ハ之ヲ訴出シ至急吟味ノ法式ヲ
以テ裁判ヲ受ク可シ

第八百四十六條 訴ヲ為ス者已レノ管セサル
證書類ノ寫書ヲ其訴訟ノ時間ニ得ント欲ス

ル時ハ次ノ手續ヲ為ス可シ

第八百四十七條 前條ニ記シタル如ク他人ノ

證書類ノ寫書ヲ得ル為メ「コムピュルソワル」ノ

調書証書人等ニ願人ニ証書ノ寫ヲ得ント欲

スル者ハ其代書師ヨリ相手方ノ代書師ニ其

寫書ヲ得ルトノ承諾ヲ得ント求ムル書ヲ送

ラシメ若シ其承諾ヲ得サル時ハ其代書師ヨ

リ彼代書師ニ裁判所吟味ノ席ニ出ツ可キノ

招書ヲ送ラシメ其他ノ手續ヲ為ストナク急

速吟味ノ法式ヲ以テ其裁判ヲ受ク可シ

第 八 百 四 十 八 條 前 條 ノ 裁 判 言 渡 ハ 抗 傳 者 其 故 障 ヲ 申 立 テ 又 ハ 之 ニ 服 セ サ ル 者 控 訴 ヲ 為 ス ニ 管 セ ス 其 言 渡 ノ 如 ク 執 行 ヲ 可 シ

第 八 百 四 十 九 條 證 書 人 又 ハ 證 書 類 ノ 預 リ 人 ハ コ ム ビ ル ソ ワ ル ノ 調 書 又 ハ 對 技 ノ 調 書 ヲ 記 シ 且 必 要 ナ ル 寫 書 ヲ 渡 ス 可 シ 但 シ 其 寫 書 ヲ 渡 ス 可 キ 一 ヲ 言 渡 シ タ ル 裁 判 所 ニ テ 其 裁 判 役 中 ノ 一 人 又 ハ 其 他 ノ 初 告 裁 判 所 ノ 裁 判 役 一 人 又 ハ 前 ニ 記 シ タ ル モ ノ ニ ア ラ サ ル 證 書 人 ヲ シ テ 此 等 ノ 諸 事 ヲ 為 サ レ ム 可 キ 一 ヲ

別 段 定 メ タ ル 時 ハ 格 別 ナ リ ト ス

第 八 百 五 十 條 何 レ ノ 場 合 ニ 於 テ モ 前 數 條 ニ 記 シ タ ル 證 書 ニ 管 ス ル 者 ハ 調 書 ヲ 記 ス ル 時 其 立 會 ヲ 為 シ 其 相 當 ト 思 料 ス ル 所 ヲ 申 述 ヘ テ 之 ヲ 其 調 ニ 記 ス ル ヲ 得 可 シ

第 八 百 五 十 一 條 證 書 ノ 正 本 ヲ 預 カ ル 者 未 タ 其 正 本 ヲ 記 シ タ ル 謝 金 及 ビ 費 用 ヲ 受 取 ラ サ ル 時 ハ 其 寫 書 ヲ 得 ン ト 求 ム ル 者 ヨ リ 其 寫 書 ノ 謝 金 ト 嘗 テ 其 正 本 ヲ 記 シ タ ル 謝 金 及 ビ 費 用 ト ヲ 受 取 ラ サ ル 内 ハ 其 寫 書 ヲ 渡 ス 一 ヲ 肯

セサルヲ得可シ

第八百五十二條 寫書ヲ其正本ト對校セント
 欲スル者ハ其證書ノ預リ人ヲシテ其正本ヲ
 讀上ケレメ自カラ其寫書ヲ校檢ス可シ若シ
 其對校ヲ為ス者寫書ト正本ト差違アルトヲ
 述フル時ハ調書ニ記シタル日ニ裁判所ノ上
 席人ニ至急吟味ヲ願ヒ出席人其對校ヲ為ス
 可シ但シ此レカ為メ證書ノ預リ人其正本ヲ
 持來ル可シ
 調書ノ費用並ニ預リ人ノ其正本ヲ持來ル費

用ハ對校ヲ願フ者之ヲ先拂ニ為ス可シ

第八百五十三條 裁判所ノ書記官及ヒ公ケノ
 簿冊ヲ預カル者ハ何人ニ限ラス總テ願ヒ出
 ル者ニ相當ノ謝金ヲ得タル上ニテ證書ノ寫
 書ヲ渡ス可シ但シ此場合ニ於テハ別段裁判
 所ノ言渡ヲ要スルコトナシ若シ其書記官及ヒ
 公ケノ簿冊ヲ預カル者寫書ヲ渡スコトヲ肯セ
 サル時ハ願人ニ損失ノ償ヲ拂フ可シ

第八百五十四條 裁判言渡書ノ再度ノ寫書ハ

裁判言渡ノ如ク執行ノ其言渡ヲ為シタル裁
可キコトヲ記シタルモ

判所ノ上席人ノ言渡アルニ非サレハ同一ノ
 人ニシテ之ヲ渡ス可カラス
 公證人ノ記シタル證書ノ再度ノ寫書ヲ渡ス
 一ニ付キ前ニ定メタル法式ハ裁判言渡書ノ
 再度ノ寫書ヲ渡ス一ニモ亦通シテ用フ可シ
 第八百五十五條 身上證書ヲ改メント欲スル
 者ハ初告裁判所ノ上等人ニ願書ヲ差出ス可
 シ
 第八百五十六條 其願ヲ吟味スルニハ別段掛
 リ裁判役ヲ任シ裁判所ニテ其掛リ裁判役ノ

申立ト檢察官ノ説トヲ聽キタル上ニテ裁判
 ヲ為ス可シ○又裁判所ニ於テハ其時ノ模様
 ニ從ヒ身上證書ニ管係アル數人ヲ呼出ス可
 キ一及ヒ其以前ニ親族會議ヲ呼集ム可キ一
 ヲ言渡スヲ得可シ
 身上證書ニ管係アル數人ヲ呼出ス可キ時ハ
 別ニ勸解ノ式ヲ為ス一ナク呼出狀ヲ送達ス
 可シ
 若シ又其管係アル數人ノ者既ニ訴訟ニ管シ
 タル時ハ代書師ヨリ代書師ニ招書ヲ送ラレ

メテ其管係アル者ヲ呼出ス可レ
 第八百五十七條 簿冊ニ記シタル身上證書ハ
 之ヲ書キ改ム可カラス身上證書ノ官吏ハ改
 更ノ言渡書ヲ受取タル後直ニ之ヲ簿冊ニ記
 入レ且更改ス可キ端ニ其旨ヲ附記ス可レ然
 ル上ハ其官吏其更改レタル所ヲ記入セスレ
 テ證書ノ寫書ヲ渡ス可カラス若シ之ヲ渡レ
 タル時ハ損失ヲ受クル者ニ相當ノ償ヲ為ス
 可レ

第八百五十八條 身上證書ヲ更改ヒント訴フ

ル者ノ外別ニ其管係アル者ナキ場合ニ於テ
 其者裁判所ノ言渡ニ服セス控訴ヒント欲ス
 ル時ハ其言渡ヨリ三月内ニ控訴院ノ上席人
 ニ願書ヲ差出レテ控訴ヲ為ス可レ但レ控訴
 院ニ於テハ其願書ニ檢察官ノ説ヲ聽キタル
 上ニテ其裁判ヲ為ス可キ期日ヲ附記ス可レ
 ○第六章 失踪者ノ財産ヲ假リニ所有
 ト為スニ付テノ規則
 第八百五十九條 民法第百十二條ニ記レタル
 場合ニ於テ裁判所ノ言渡ヲ得ント欲スル者

ハ裁判所ノ上席人ニ願書ト其證書類トヲ差
出シ上席人其願書ヲ受取リタル上別段定メ
タル日ニ申立ヲ為ス可キ掛リ裁判役ヲ任ス
可シ但レ裁判言渡ヲ為スニハ檢事ノ説ヲ聽
ク可シ

第八百六十條 民法第百二十條ニ記シタル如
ク失踪者ノ財産ヲ假リニ所有ト為サントス
ル時モ亦前條ノ手續ヲ為ス可シ

○第七章 婚姻ニタル婦訴訟ヲ為サン
ト欲スル時裁判所ヨリ其訴訟ヲ為

スノ允許ヲ受クル手續

第八百六十一條 婦自己ノ權利ヲ保護スル為
メ訴訟ヲ為サント欲スル時ハ先ツ其夫ノ承
諾ヲ得ント求メ其夫之ヲ肯セサル時ハ裁判
所ノ上席人ニ願書ヲ差出シ其上席人ハ定マ
リシ日ニ夫ヲシテ其承諾ヲ為サ、ル、趣意
ヲ述ヘシムル為メ之ヲ裁判役會議ノ室ニ呼
出ス可キトテ其婦ニ允許ス可シ
第八百六十二條 裁判所ニテ夫ノ申立ヲ聽キ
タル上又ハ夫ノ出席セサル上ニテ檢察官ノ

説ヲ聽キ婦ノ訴訟ヲ為ス、允許ヲ得ントス
ル訴ヲ裁判ス可レ

第八百六十三條 夫失踪ノ思度ヲ受タル時又
ハ夫ノ失踪ヲ公告シタル時訴訟ヲ為ス、允
許ヲ得ント欲スル婦ハ裁判所、上席人ニ願
書ヲ出シ其上席人ハ其旨ヲ檢察官ニ報告ス
ルヲ言渡シ且定リシ日ニ申立ヲ為サシム
ル為メ掛リ裁判役ヲ任ス可レ
第八百六十四條 治産ノ禁ヲ受ケタル者、婦
ハ前條ニ記シタル法式ニ循ヒ訴訟ヲ為ス、

允許ヲ願フ可シ但シ其婦ハ其願書ニ添ヘテ
其夫ノ治産ノ禁ヲ受ケタル言渡書ヲ出ス可
シ

○第八章 夫婦財産分ツ事

第八百六十五條 婦其夫ト財産ヲ分クントス
ル訴ヲ為スニハ先ツ裁判所、上席人ニ其旨
ヲ求ムル願書ヲ出シ其允許ヲ得タル上ニテ
其訴ヲ為ス可シ○上席人ハ其允許ヲ為ス前
ニ相當ノ説諭ヲ為スヲ得可シ

第八百六十六條 裁判所、書記官ハ別段聴訟

、室ニ具ヘ置キタル懸帖ニ逢延ナク左件ヲ
記シタル婦、訴書、拔書ヲ記入ス可シ

第一 訴、日附

第二 夫婦、姓名、職業、住所

第三 婦、任シタル代書師、姓名、居所但

シ其代書師、訴ヲ為シタルヨリ三日内

ニ書記官ニ其訴書、拔書ヲ出ス可シ

第八百六十七條 前條ニ記シタル訴書、拔書

ハ商法裁判所、聽訟ノ室及ヒ初告裁判所、

代書師取締人、役所並ニ証書人、役所ニ具

ヘタル懸帖ニ記入ス可シ但シ之ヲ記入シタ

ル旨ハ裁判所書記官ト代書師取締人役所、

書記官ト証書人、役所ノ書記官トニテ之ヲ

證ス可シ

第八百六十八條 又前條ニ記レタル拔書ハ婦

ノ求ニ從ヒ裁判所所在ノ地ニテ刊行スル新

聞紙ニ記入ス可シ若シ又裁判所所在ノ地ニ

新聞紙ナキ時ハ其州内ニテ刊行スル新聞紙

ニ記入ス可シ

其記入ヲ為シタル旨ハ第六百九十八條ニ記

レタル如ク之ヲ證ス可レ

第八百六十八條 總テ婦ノ權利ヲ保護スル為

メノ言渡ヲ除クノ外夫婦財産ヲ分ツ訴ニ付

キ前數條ニ記シタル法式ヲ行ツタルヨリ一

月ノ後ニ非レハ其裁判ノ言渡ヲ為ス可カラ

ス若レ其法式ヲ行ハサル時ハ夫又ハ其債主

ヨリ婦ノ財産ヲ分ツ訴ヲ取消サント訴フル

トヲ得可レ

第八百七十條 夫ノ債主アラル時ト雖モ夫

ノ自認ヲ以テ婦ノ訴ノ如ク允許ス可キノ證

ト為ス可カラス

第八百七十一條 夫ノ債主ハ婦ノ財産ヲ分ツ

確定ノ裁判言渡アル時ニ至ル迄其代書師ヨ

リ婦ノ代書師ニ招書ヲ送ラレメ婦ノ財産ヲ

分ツ訴書及ヒ之ニ添フ可キ證書類ヲ受取ラ

ント求ムルヲ得可ク又己レノ權利ヲ保護

スル為メ夫婦ノ訴ニ管涉スルヲ得可レ但

レ此場合ニ於テハ勸解ノ式ヲ為スニ及ハス

第八百七十二條 夫婦財産ヲ分ツ裁判言渡書

ハ其言渡ヲ為シタル裁判所ノ管轄地内ニ商

法裁判所アル時ハ其商法裁判所ノ吟味ノ席ニテ公ケニ之ヲ讀上ケ且其言渡ノ日附之ヲ為シタル裁判所並ニ夫婦ノ姓名職業住所ヲ附記シタル其言渡書拔書ヲ懸帖ニ記入シ又夫ノ商人タルト否トヲ問ハス其住所ノ初告裁判所ノ聽訟ノ室ト商法裁判所ノ聽訟ノ室トニ一年間其懸帖ヲ掲ケ置ク可シ若シ其住所ノ地ニ商法裁判所ノアラサル時ハ其住所ノ邑ノ官署ノ公堂ニ掲ケ置ク可シ○又代書師取締人ノ役所及ヒ證書人ノ役所ノ懸帖ニ

同上ノ言渡書ノ拔書ヲ記入ス可レ○婦ハ前ニ記シタル法式ヲ行ヒレ日ノ後ニ非レハ言渡書ノ如ク執行フトニ取掛ル可カラス然レ尺同上ノ一年ノ期限ノ終ルヲ必スレモ待ツニ及ハス
 此條ノ規則ヲ以テ民法第千四百四十五條ニ記シタル規則ノ害ヲ為ス可カラス
 第八百七十三條 此章ニ記シタル法式ヲ行フタル上ハ前條ニ記シタル期限ノ終リシ後夫ノ債主其訴ニ管涉シテ財産ヲ分ツ言渡ヲ取

消サント訴フルヲ許サス

第八百七十四條 婦是レ迄夫ト共通シタル財産ヲ分テタル上其財産ヲ拋棄スル者ハ其財産ヲ分ツ訴ヲ為レタル裁判所ノ書記局ニ之ヲ申出ス可シ

○第九章 夫婦居テ分ツ事及ヒ離婚ノ事

第八百七十五條 夫婦互ニ居テ分タントスル訴ヲ為サント欲スル者ハ其訴ヲ為ス原由ヲ簡略ニ記シタル願書ヲ其住所ノ初告裁判所

ノ上席人ニ差出ス可シ又其訴ヲ為スニ付キテハ證書アル時ハ其證書ヲモ差出ス可シ

第八百七十六條 初告裁判所ノ上席人ハ其願書ヲ檢視シタル上ニテ別段定メタル日ニ夫婦共ニ己レノ面前ニ出席ス可キヲ言渡ス可シ

第八百七十七條 夫婦共ニ自ラ裁判所ノ上席人ノ面前ニ出席ス可キ代書師又ハ代言人ヲ伴行ス可カラス

第八百七十八條 裁判所ノ上席人ハ夫婦ヲ和

解セシムル為メ相當ト思料スル件々ヲ説諭
 シ若シ和解セシムルヲ得サルハ双方和解
 スルヲ得サルニ因リ更ニ治安裁判役ノ面前
 ニ出テ勸解ノ式ヲ為スニ及ハス直ニ初告裁
 判所吟味ノ席ニ出ツ可キヲ許ルス旨ノ言
 渡ヲ為シ且其上席人ハ婦ニ自カラ訴ヲ為ス
 ヲ許ルス旨ト其婦ヲシテ双方協議シテ定
 メタル家屋又ハ其上席人ノ定タル家屋ニ仮
 リニ轉居セシムル旨トヲ言渡シ又婦ノ日用
 品ヲ婦ニ渡ス可キ旨ヲ言渡ス可シ○婦ノ養

料ヲ得ント求ムル訴ハ裁判所吟味ノ席ニ之
 ヲ為ス可シ
 第八百七十九條 夫婦居ヲ分ツ訴ハ他ノ訴ト
 同様ノ法式ヲ以テ吟味シ檢察官ノ説ヲ聽キ
 タル上ニテ之ヲ裁判ス可シ
 第八百八十條 夫婦居ヲ分ツ訴ノ如ク允許ス
 ル裁判言渡書ノ寫ハ第八百七十二條ニ記シ
 タル如ク裁判所聽訟ノ室ト代書師取締役ノ
 役所ト證書人ノ役所トニ具ヘタル懸帖ニ記
 入ス可シ

第八百八十一條 離婚ノ訴ハ民法ニ記シタル如ク之ヲ為ス可シ

○第十章 親族會議ノ決定

第八百八十二條 若シ後見人トナル可キ者ヲ其在ラサル所ニテ其職ニ任シタル時ハ親族會議中ヨリ別段撰ミタル者其旨ヲ後見ノ職ニ任シタル者ニ報告ス可シ但シ其報告ハ親族會議ノ決定ヨリ三日内ニ之ヲ為ス可ク且其會議ノ場所ト後見ノ職ニ任シタル者ノ住所トノ間路程三「ミリアメートル」毎ニ其期限

ニ一日ヲ増ス可シ

第八百八十三條 親族會議ニ敷説アル時ハ其各員ノ説ヲ調書ニ記ス可シ

後見人、後見人ノ監察者、管財人又ハ親族會議ノ各員ハ會議ノ決定ニ服セスシテ裁判所ニ訴出スルヲ得可シ但シ其訴ハ會議員中ニテ其決定ヲ可ナリトシタル者ニ對シテ之ヲ為ス可ク別段勸解ノ式ヲ為スニハ及ハス
第八百八十四條 其訴ハ急速吟味ノ法式ヲ以テ之ヲ裁判ス可シ

第八百八十五條 親族會議ノ決定ニ付キ裁判
 所ノ允許ヲ得ルノ必要ナル時ハ決定書ノ
 寫ヲ裁判所ノ上席人ニ差出シ其上席人ハ之
 ヲ檢察官ニ報告ス可キ旨ヲ言渡シ且別段定
 メタル日ニ申立ヲ為ス可キ為メ掛リ裁判役
 ヲ任ス可シ

第八百八十六條 檢事ハ前條ニ記シタル上席
 人ノ言渡書ノ末ニ其說ヲ附記シ又裁判所ニ
 テ親族會議ノ決定ノ如ク允許スル言渡ハ檢
 事ノ說ヲ記シタル次ニ之ヲ附記ス可シ

第八百八十七條 若シ後見人又ハ其他親族會
 議ノ決定ニ付キ裁判所ノ允許ヲ得ント訴フ
 可キ者其決定ニテ定メタル期限内ニ其訴ヲ
 為サル時又ハ其決定ニテ別ニ期限ヲ定メ
 タルヲナキニ於テハ十五日ニ其者其訴ヲ
 為サル時ハ會議員中ノ者ヨリ後見人又ハ
 裁判所ノ允許ヲ得ント訴フ可キ者ニ對シテ
 訴訟ヲ為シ自カラ其允許ヲ乞フ可シ但シ後
 見人又ハ其他裁判所ノ允許ヲ得ント訴フ可
 キ者ハ己レノ受ケタル訴訟ノ費用ヲ擔當ス

可ク幼者ヨリ之ヲ取還ス可カラス

第八百八十八條 親族會議ノ頁中ニテ其決定

ニ付キ裁判所ノ允許ヲ得ルヲ可ナリトセ

サル者ハ其允許ヲ得ルノ訴ヲ為ス可キ者ニ

裁判所外ニテ記シタル書面ヲ以テ其旨ヲ報

告シ若シ其者呼出ヲ受クルヲナク裁判所ニ

テ允許ヲ為スノ言渡ヲ為シタル時ハ其言渡

ニ付キ故障ヲ述フルヲ得可シ

第八百八十九條 親族會議ノ決定ニ付テノ裁

判言渡ハ之ヲ控訴スルヲ得可シ

○第十一章 治産ノ禁ヲ受ル事

第八百九十條 治産ノ禁ヲ受ケシメントスル

訴ヲ為スニハ白癡、癩疾、狂疾ノ模様ヲ記シタ

ル願書ヲ初告裁判所ノ上席人ニ差出シ又之

ニ添フ可キ證書類アル時ハ之ヲ添ヘテ差出

シ且證人ノ姓名ヲ申述フ可シ

第八百九十一條 裁判所ノ上席人ハ其願書ヲ

檢察官ニ送達シ且別段定メタル日ニ申立ヲ

為ス可キ掛リ裁判役ヲ任ス可シ

第八百九十二條 裁判所ニ於テハ掛リ裁判役

ノ申立ト檢察官ノ説トヲ聽タル上ニテ民法
 第一篇第十卷第二章第四款ニ記シタル如ク
 集會シタル親族會議ヲシテ治産ノ禁ノ訴ヲ
 受ケタル者ノ景狀ニ付キ其説ヲ述ヘシム可
 キトヲ言渡ス可シ

第八百九十三條 第八百九十條ニ記シタル願
 書ト親族會議ノ決定書トハ被告人ノ問糺ヲ
 為ス前ニ之ヲ被告人ニ送達シ置ク可シ
 若シ被告人ノ問糺ト第八百九十條ニ記シタ
 ル證書トノミニテハ猶十分其景狀ヲ了知ス

ルトヲ得スレテ證人ヲ以テ其景狀ヲ了知ス
 ルトヲ得可キ時ハ通例ノ式ニテ證人吟味ヲ
 為ス可キトヲ裁判所ヨリ言渡ス可シ
 若シ別段己ムヲ得サル事情アル時ハ被告人
 ノ在ラサル所ニテ其證人吟味ヲ為ス可キト
 ヲ裁判所ヨリ言渡ストヲ得可シ但シ此場合
 ニ於テハ被告人ノ代言人其名代トシテ出席
 スルトヲ得可シ

第八百九十四條 被告人治産ノ禁ノ言渡ヲ受
 ケ之ニ服セスレテ控訴スル時ハ是迄ノ原告

人ニ對シテ其控訴ヲ為ス可シ
 又其原告人又ハ親族會議ノ員中ノ者初告裁
 判所ノ言渡ニ服セスシテ控訴スル時ハ是迄
 ノ被告人ニ對シテ其控訴ヲ為ス可シ
 裁判所ヨリ別段補佐人民法第四百九十九條見合セヲ任シ
 タル時被告人之ニ服セスシテ控訴ヲ為ス時
 ハ是迄ノ原告人ニ對シテ其控訴ヲ為ス可シ
 第八百九十五條 治産ノ禁ノ言渡ヲ受ケタル
 被告人其言渡ヲ控訴スルヲナキ時又ハ控訴
 ヲ為スト雖モ負訴訟トナルキハ前章ニ記シ

タル規則ニ循ヒ其後見人並ニ後見人ヲ監察
 者ヲ任ス可シ
 此場合ニ於テハ民法第四百九十七條ニ循ヒ
 任シタル假リノ財産支配人其職ヲ止メ後見
 人ニ算計ヲ為ス可シ但シ其支配人自カラ後
 見ノ職ニ任シタル時ハ格別ナリトス
 第八百九十六條 治産ノ禁ヲ免ルハ、ト願フ
 訴ハ治産ノ禁ノ訴ト同様ノ法式ヲ以テ之ヲ
 吟味シ且之ヲ裁判ス可シ
 第八百九十七條 裁判所ヨリ任シタル補佐人

ノ立會ヲ得サレハ訴訟ヲ為シ又ハ和解ヲ為シ又ハ金高ヲ借受ケ又ハ之ヲ受取テ其受取書ヲ與ヘ又ハ自己ノ不動産ヲ賣拂ヒ及ヒ附與シ又ハ書入質ト為ス等ノ諸事ヲ為ス可カラサル禁ノ言渡書民法第四百九十九條見合セハ民法第五百一條ノ法式ヲ以テ之ヲ貼附ス可シ

○第十二章 負債者其債ヲ償フヲ能ハサル時其財産ヲ拋棄スル事

第八百九十八條 民法第千二百六十八條ニ記シタル如ク裁判所ノ言渡ニ因リ財産拋棄ヲ

為スヲ得可キ負債者ハ其拋棄ノ訴ヲ為シタル裁判所ノ書記局ニ其者ノ人ヨリ得可キ義務ト其負債トノ目錄書及ヒ商業ノ簿冊アルニ於テハ其簿冊並ニ其者ノ人ヨリ得可キ諸件ノ證書ヲ差出ス可シ

第八百九十九條 負債者ハ其住所ノ裁判所ニ前條ノ訴ヲ為ス可シ

第九百條 同上ノ訴ハ檢察官ニ報告ス可シ但シ其訴ヲ為シタルト雖モ裁判役此訴ニ管係アル者ヲ呼出シタル上總テ其他ノ訴訟ヲ全

ク停止ス可キ旨ヲ言渡シタルニ非サレハ其
他ノ訴訟ヲ停止ス可カラス

第九百一條 財産抛棄ノ允許ヲ得タル負債者
ハ其住所ノ商法裁判所聽訟ノ席ニ必ス自身
出席シ其債主ヲ呼出シタル上ニテ其財産抛
棄ノ旨ヲ更ニ再度申述ヘ若シ其負債者住所
ノ地ニ商法裁判所アラサル時ハ其住所ノ邑
ノ官署ニテ同上ノ申述ヲ為ス可シ但シ邑ノ
官署ニ於テ其再度ノ申述ヲ為シタル時ハ邑
長ノ姓名ヲ自署シタル使吏ノ調書ヲ以テ負

債者再度ノ申述ヲ為シタル旨ヲ證ス可シ

第九百二條 若シ負債者既ニ其負債ノ為メニ
禁錮ヲ受ケタル時其財産ヲ抛棄シテ負債ヲ
免ル、ノ言渡ヲ得タルニ於テハ負債者ヲシ
テ前條ノ如ク其再度ノ申述ヲ為サシムル為
メ其負債者ノ禁錮ヲ赦免スル旨ヲ其言渡書
ニ附記ス可シ但シ此場合ニ於テ負債者ノ走
脱ヲ防ク為メ相當ノ處置ヲ為ス可シ使吏ヲ
債者ヲ監察セ
シムルヲ云フ

第九百三條 負債者ノ住所ヲ管轄スル商法裁

判所又ハ其裁判所ニ代テ職務ヲ行フ初告裁
判所ノ聽訟ノ室ト邑ノ官署ノ會議ノ室トニ
具ヘタル懸帖ニ其負債者ノ姓名職業居所ヲ
記入ス可シ

第九百四條 負債者ニ財産拋棄ヲ允許スル言
渡書ハ債主ニ負債者ノ動産及ヒ不動産ヲ賣
渡スルヲ許シタルノ効アル書面ナリト看做
ス可シ但シ其賣拂ヲ為ス方法ハ相續シタル
財産ノ價高ニ至ル迄ノ外負債ヲ償ハサルノ
特權ヲ有スル遺物相續人ノ為メタル方法
第九

百八十六條ト同シカル可シ
以下見合セ

第九百五條 外國人「ステリヲナリ」ノ罪アル者

民法第二十五條見合セ 詐偽アル倒産人、盜罪又ハ偽テ

金ヲ竊取スルノ罪ヲ犯セシ者、算計ヲ為ス可

キ者、後見人財産ノ支配人、財産ノ預リ人ハ財

産拋棄ヲ為シテ禁錮ヲ免ル可ラス

第九百六條 此章ノ規則ハ方今ニ至ル迄別段

更改シタルヲナキ商法ノ規則ノ害トナル可

ラス

○第二卷 遺物相續ヲ始ムルニ付テノ手

續千八百六年四月二十八日決定五月

八日布告

○第一章 死者ノ財産ニ封印ヲ為ス事

第九百七條 死者ノ財産ニ封印ヲ為ス可キ事

アル時ハ治安裁判役之ヲ為シ又其裁判役ノ

アルサル時ハ其代人之ヲ為ス可シ

第九百八條 治安裁判役又ハ其代人其封印ヲ

為スニ付テハ別段ノ印形ヲ用ヒ之ヲ預リ置

ク可シ但シ其印紙ノ初告裁判所ノ書記局ニ

納メ置ク可シ

第九百九條 左ニ記列スル所ノ各人ハ死者ノ財産ニ封印ヲ為スヲ求ムルヲ得可シ

第一 死者ノ遺物財産ヲ得可キノ權アリ

ト述フル者又ハ死者ト共通シタル財産ヲ得可キ權アリト述ノル者

第二 裁判言渡ノ如ク執行ノ可キ證書ヲ有スル死者ノ債主又ハ初告裁判所ノ上席人或ハ死者ノ財産所在ノ縣ノ治安裁判役ヨリ別段ノ允許ヲ得タル死者ノ債

主

第三 死者ノ配偶者及ヒ其遺物相續人ハアラサル時ハ死者ノ同居人及ヒ其從者僕婢

第九百十條 死者ノ遺物財産ヲ得可キ權アリ

ト述フル者又ハ死者ノ債主ハ幼年ナリト雖モ既ニ後見ヲ免レタルニ於テハ管財人ノ立會ナクシテ死者ノ財産ニ封印ヲ為スヲ求ムルヲ得可シ

若シ同上ノ者未タ後見ヲ免レサル幼者ニシ

テ其後見人ナク又ハ其後見人不在ナル時ハ其幼者ノ親族ヨリ死者ノ財産ニ封印ヲ為ス可キヲ求ムルヲ得可シ

第九百十一條 左ニ記列スル場合ニ於テハ檢察官ノ求メニ因リ又ハ邑長若クハ其補佐役ノ申立ニ因リ又ハ治安裁判役ノ公務ヲ以テ死者ノ財産ニ封印ヲ為ス可シ

第一 幼者ノ後見人ナクシテ其親族ヨリ封印ヲ為スヲ求メサル時

第二 死者ノ配偶者又ハ其遺物相續人中

ノ一人不在ナル時

第三 死者公ケノ書類又ハ官金ヲ預ル者タル時但シ此場合ニ於テハ死者ノ預リタル物件ノニニ封印ヲ為ス可シ

第九百十二條 封印ハ財産所在ノ地ノ治安裁判役又ハ其代人ニ非レハ之ヲ為ス可ラス

第九百十三條 埋葬ノ前ニ財産ニ封印ヲ為サル時ハ治安裁判役其封印為ス可キノ求メヲ受ケタル日刻ト其求メ並ニ封印ヲ為スノ遲延シタル原由トヲ調書ニ附記ス可シ

第九百十四條 封印ヲ為スニ付テノ調書ニハ
左件ヲ記ス可シ

第一 封印ヲ為シタル年月日時

第二 封印ヲ為スノ趣意

第三 封印ヲ為スヲ求ムル者アル時ハ

其者ノ姓名職業住所並ニ其者封印ヲ為

ス可キ財産所在ノ邑内ニ住セサル時ハ

其邑内ニ別段其住所ヲ擇ミタル事

第四 又封印ヲ為スヲ求ムル者ナキ時

ハ第九百十一條ニ記シタル官吏ノ公務

ニ因リ又其求メ或ハ申立ニ因リ封印ヲ
為シタル事

第五 封印ヲ為スヲ允許スル言渡アル

時ハ其言渡ノ旨

第六 死者ノ財産ニ管係アル者封印ヲ為

スヲ付キ裁判所ニ出席シタル事及ヒ

其者ノ陳述

第七 封印ヲ為シタル房室卓子引出シタルノ

箱櫃戸棚等ノ模様

第八 封印ヲ為サル財産ノ簡略ナル記

載

第九 封印ヲ為ス時其場所ニ在ル者自カ
 ラ其財産中ノ一物ヲモ竊取シタルナク
 且他人ノ之ヲ竊取シタルヲ見タルト又
 知リタルトモナキ旨ノ類

第十 封印ヲ為スヲ求ムル者ヨリ其封印
 ヲ為ス財産ノ預リ人ヲ立テ其預リ人必
 要ナル身分ナル時ハ之ヲ其預リ人ト定
 メタル事又其預リ人必要ナル身分ナラ
 サル時或ハ其預リ人ナキ時ハ治安裁判

役其公務ヲ以テ別段其預リ人ヲ任シタ
 ル事

第九百十五條 封印ヲ為シタル錠ノ鍵ハ其封
 印ヲ除去スルニ至ル迄治安裁判所ノ書記官
 之ヲ預リ置キ其書記官ハ調書ニ其鍵ヲ受取
 リタル旨ヲ記ス可シ此場合ニ於テハ裁判役
 並ニ書記官ハ其封印ヲ除去スル迄ハ其封印
 ヲ為シタル財産所在ノ家屋ニ至ル可カラズ
 若シ此規則ニ背ク時ハ一時其職ヲ行フノ禁
 ヲ受ク可シ但シ此等ノ官吏別段其家屋ニ至

ル可キノ求人ヲ受ケタル上又ハ初告裁判所ノ上席人ノ言渡アル上ニテ其家屋ニ至ル時ハ格別ナリトス

第九百十六條 治安裁判役財産ニ封印ヲ為ス時遺囑書又ハ其他封印レタル書類ヲ見出シタルニ於テハ其外面ノ模様ト其印形ト並ニ其表書アルニ於テハ其表面トテ證シ其立會人ト共ニ其封紙ニ姓名ノ手署ニ代用スル横線ヲ畫シ且其封印アル書類ヲ初告裁判所ノ上席人ニ送呈ス可キ日刺ヲ指示ス可シ但シ

此等ノ諸件ハ調書ニ之ヲ記シ立會人之ニ姓名ヲ手署ス可シ若レ又立會人其姓名ノ手署ヲ為スヲ欲セサル時ハ其旨ヲ調書ニ附記ス可シ

第九百十七條 治安裁判役ハ死者ノ財産ニ管係アル者ノ求メニ從ヒ財産ニ封印ヲ為ス前ニ遺囑書ヲ搜シテ之ヲ見出シタル時ハ前條ニ記レタル如ク處置ス可シ

第九百十八條 預定レタル日刺ニ至リ別段管係アル者ヲ呼出スニ及ハスレテ治安裁判役

封印アル書類ヲ初告裁判所ノ上席人ニ送呈
 シ其上席人之ヲ受取リ其封印ヲ開キテ書類
 ノ模様ヲ検査シ若シ其書類中ニ遺物相續ニ
 管スルモノアル時ハ之ヲ証書人ニ預クルヲ
 言渡ス可シ

第九百十九條 若シ封印ヲ為レタル書類其表
 書ニ因リ又ハ其他書面ノ證據ニ因リ死者ヨ
 リ更ニ他ノ者ニ属ス可シト思ハル、時ハ初
 告裁判所ノ上席人其者ヲ定期内ニ呼出シテ
 其書類ヲ開封スル時立會ヲ為サシム可キ旨

ノ言渡シ其預定レタル日ニ至リ其者ヲ呼出
 レタル上又ハ之ヲ呼出シテ猶出席セサル上
 ニテ其書類ヲ開封シ其書類死者ノ遺物ニ管
 セル時ハ初告裁判所ノ上席人其書ニ記シタ
 ル所ヲ知ラシムルヲナク之ヲ同上ノ者ニ渡
 シ又ハ其書類ニ再ヒ封印ヲ為シ置キ同上ノ
 者ノ求メ次第早速之ヲ渡ス可シ

第九百二十條 若シ又遺囑書ニ封印ナキ時ハ
 治安裁判役其遺囑書ノ模様ヲ検査シ且第九
 百十六條ニ記スル所ノ規則ニ循フ可シ

第九百二十一條 若レ死者ノ家屋門戸ヲ閉シタル時又ハ其財産ニ封印ヲ為スニ付キ妨アル時又ハ封印ヲ為ス前又ハ其間ニ故障ノ起ル時ハ初告裁判所ノ上席人至急吟味ノ法式ヲ以テ之ヲ裁判ス可シ○其至急吟味ヲ為ス為メニ暫ク封印ヲナスコトヲ猶預シ治安裁判役其死者ノ家ノ内又ハ其外ニ番人ヲ備ヘ置キ直ニ其旨ヲ初告裁判所ノ上席人ニ報告ス可シ

然レモ治安裁判役封印ヲ為スヲ猶豫スル時

ハ損害アル可シト思量スルニ於テハ假リニ其言渡ヲ為シ置キ後ニ其旨ヲ初告裁判所ノ上席人ニ報告ス可シ

第九百二十二條 財産封印ノ事又ハ其他ノ事ニ付キ治安裁判役ヨリ初告裁判所ノ上席人ニ報告シテ其決ヲ取ルヲ求ムル時ハ此等ノ事ニ付キ為シタル諸件及ヒ言渡シタル諸件ヲ治安裁判役ノ書シタル調書ニ記シ初告裁判所ノ上席人ハ其言渡ノ旨ヲ其調書ニ附記シタル所ニ姓名ヲ手署ス可シ

第九百二十三條 既ニ遺物財産ノ目錄書ヲ成
 就シタル上ハ其財産ニ封印ヲ為スニ及ハス
 但レ其目錄書ニ付キ故障ヲ述フル者アリテ
 初告裁判所ノ上席人其財産ニ封印ヲ為ス可
 キヲ言渡シタル時ハ格別ナリトス
 又目錄書ヲ記スル時間ニ封印ヲ為スヲ求
 ムル者アル時ハ未タ目錄書ニ記セサル物件
 ノミニ封印ヲ為ス可シ
 第九百二十四條 若シ封印ヲ為スニ足ル可キ
 死者ノ財産アラサル時ハ治安裁判役財産ノ

アラサル旨ヲ調書ニ記ス可シ
 又死者ノ家ニ居ル者ノ用フル為ノ必要ナル
 物件アル時又ハ封印ヲ為スヲ得サル物件ア
 ル時ハ治安裁判役此等ノ物件ヲ簡易ニ記列
 レタル調書ヲ記ス可シ
 第九百二十五條 人口ニ萬以上ノ邑ニ於テハ
 初告裁判所ノ書記局ニ死者ノ財産ニ封印ヲ
 為シタル旨ヲ順序ヲ逐テ登記スル簿冊ヲ設
 ケ置ク可シ但レ其簿冊ニハ其初告裁判所ノ
 管轄地内ノ治安裁判役封印ヲ為シタルヨリ

二十四時内ニ報告スル順序ニ循ヒ左件ヲ記
ス可也

第一 死者ノ姓名住所

第二 封印ヲ為シタル裁判役ノ姓名住所

第三 其封印ヲ為シタル日

○第二章 死者ノ財産ノ封印ヲ除去ス
ルニ付キ故障ヲ述ル事

第九百二十六條 死者ノ財産ノ封印ヲ除去ス
ルニ付キ故障ヲ述フル事ハ封印ヲ為シタル
調書ニ之ヲ附記シ又ハ治安裁判所ノ書記官

ニ送達スル書面ニ記ス可シ

第九百二十七條 前條ノ故障ヲ述フル書面ニ

ハ通例ノ呼出シ狀ニ記ス可キ諸件ノ外左件
ヲ記ス可シ若シ之ヲ記セサル時ハ其効ナカ
ル可シ

第一 其故障ヲ述フル者其封印ヲ為シタ

ル治安裁判所ノ管轄地内ニ住セサル時
ハ別段其地ニ住所ヲ擇ミタル事

第二 其故障ヲ申述フル原由ノ説明ナル

記載

○第三章 死者ノ財産ノ封印ヲ除去スル事

第九百二十八條 死者ノ埋葬ノ前ニ其財産ニ封印ヲ為シタル時ハ其埋葬ノ日ヨリ三日ノ後又其埋葬ノ後ニ其財産ニ封印ヲ為シタル時ハ其封印ヲ為シタルヨリ三日ノ後ニ非レハ其封印ヲ除去シテ目錄ヲ記ス可カラス若シ此規則ニ背ク時ハ其封印除去ノ調書並ニ財産目錄ノ調書ノ効ナク且其調書並ニ目錄ヲ記シタル者及ヒ之ヲ記スルヲ求メタル

者ハ死者ノ財産ニ管係アル者ニ對シ損失ノ償ヲ為ス可キノ言渡ヲ受ク可シ但シ別段急速ナルヲ必要トスル場合ニ於テ初告裁判所ノ上席人同上ノ定期ニ管ヒス封印ヲ除去ス可キヲ言渡シ且其急速ナルヲ必要ナル旨ヲ其言渡書ニ附記シタル時ハ格別ナリトス○此場合ニ於テ封印ヲ除去スルニ立會ヲ可キノ權アル者其立會ヲ為サ、ル時ハ初告裁判所ノ上席人其公務ヲ以テ別段其者ノ名代人タル可キ證書人一人ヲ任シ其證書人ヲ

レテ其封印ノ除去ヲ為ス時ト目錄ヲ記スル
時トニ立會ヲ為サシム可シ

第九百二十九條 若シ死者ノ遺物相續人中ニ
未タ後見ヲ免レサル幼者アルキハ其幼者ノ
後見人ヲ任シ又ハ其幼者後見人ヲ免レタル
後ニ非レハ死者ノ財産ノ封印ヲ除去ス可カ
ラス

第九百三十條 死者ノ財産ニ封印ヲ為サシム
ルノ權アル者ハ亦其除去ヲ求ムルノ權アリ
但シ第九百九條ノ第三ニ記シタル者ハ格別

ナリトス

第九百三十一條 死者ノ財産ノ封印ヲ除去ス
ルニ付テノ法式ハ左ノ如シ

第一 其除去ヲ求ムル事但シ之ヲ求ムル
事ハ治安裁判役ノ調書ニ之ヲ記入ス可
シ
第二 其除去ヲ為ス可キ日刻ヲ指示ス裁
判役ノ言渡書

第三 死者ノ配偶者、最親近ノ遺物相續人、
遺囑ノ贈遺ノ管理者、死者ノ財産ノ全部

ヲ遺囑ノ贈遺トシテ受ク可キ者其財産ノ別段指定メサル一部ヲ遺囑ノ贈遺トシテ受ク可キ者其財産ノ封印ヲ除去スルニ付キ故障ヲ述マル者ニ其除去ノ時立會ヲ為ス可キノ呼出狀ヲ送達スル事此等ノ管係アル者五「ミリアメー」トル以上ノ隔遠ノ地ニ住スル時ハ其本人ヲ呼出スニ及ハス初告裁判所ノ上席人其公務ヲ以テ此等ノ者ノ名代人トシテ任シタル證書人ヲシテ封印除去ノ時ト目錄ヲ記スル時ト其立會ヲ

為サシム可レ
封印ノ除去ニ付キ故障ヲ述フル者ハ其別段擇ミタル住所ニ呼出狀ノ送達ヲ受ク可レ
第九百三十二條 死者ノ配偶者其遺囑贈遺ノ管理者遺物相續人死者ノ財産ノ全部ヲ遺囑ノ贈遺トシテ受ク可キ者又ハ其財産ノ別段指定メサル一部ヲ遺囑ノ贈遺トシテ受ク可キ者ハ死者ノ財産ノ封印ヲ除去レ又ハ其財産ノ目錄ヲ記スル日毎ニ自カラ立會ヒ或ハ其名代人ヲシテ立會ハレムルヲ得可レ

死者ノ財産ノ封印ヲ除去スルニ付キ故障ヲ述フル數人ハ自カラ出席スルト各自ノ名代人ヲ出ストヲ問ハス其封印ヲ除去シ又ハ其財産ノ目錄ヲ記スル初日ノニ立會ヲ為ス
 一ヲ得可ク其後ノ日ニ至テハ數人協議シテ其名代人一人ヲ出ス可レ若レ其數人名代人一名ヲ撰ムトヲ協議セサル時ハ裁判所ノ公務ヲ以テ之ヲ任ス可レ
 又其數人ニ代テ封印ヲ除去シ又ハ目錄ヲ記スル初日ニ立會タル者ノ内ニ其手續ニ管シ

タル初告裁判所ノ代書師アル時ハ其本人ヨリ受取リタル證書ニ據テ其名代人タルノ權ヲ授カリタル旨ヲ證シ又公正ノ證書ヲ有スル債主前ニ云フ所ノ封印除去ノ代書師中ニ付キ故障ヲ述フル者テ最モ先キニ其職ニ任セラレタル者其除去ノ故障ヲ述フル數人ノ名代人トナリテ常ニ其立會ヲ為レ若レ又債主皆公正ノ證書ヲ有セサル時ハ私ノ證書ヲ有スル債主ノ代書師中ニテ最モ先ニ任ヲ受ケタル者其故障ヲ述フル數人ノ名代人トナリテ常ニ其立會ヲ為

ス可シ○其代書師中ニテ最モ先キニ任ヲ受ケタル者ヲ定ムルヲハ封印ヲ除去シ又ハ目錄ヲ記スル初日ニ之ヲ為ス可シ

第九百三十三條 封印ノ除去ニ付キ故障ヲ述フル者ノ中一人ノ權利他ノ者ノ權利ト異ナリ又ハ他ノ者ノ權利ト全ク反シタル時ハ其一人自カラ封印除去ノ時立會ヲ為シ又ハ己レノ費用ヲ以テ其名代人一員ヲ出ス可シ

第九百三十二條 自己ノ負債者ノ權利ヲ保護スル為メ封印ノ除去ニ付キ故障ヲ述フル者

ハ其封印除去ノ初日ト雖モ立會ヲ為スヲ得ス又其後ノ日ニ於テモ數人共同ノ名代人ヲ撰ムニ管渉スルヲ得ス

第九百三十五條 死者ト財產ヲ共通シタル其配偶者死者ノ遺物相續人死者ノ遺囑ノ管理
者死者ノ財產ノ全部ヲ遺囑ノ贈遺トシテ受ク可キ者又ハ其財產ノ別段指定メサル一部ヲ遺囑ノ贈遺トシテ受ク可キ者ハ相協議シテ證書人一人又ハ二人ヲ撰ミ且評價人一人又ハ二人ヲ撰ム可シ若シ又此等ノ者協議セ

ナル時ハ其時ノ模様ニ因リ初告裁判所ノ裁判役其公務ヲ以テ證書人一人又ハ二人或ハ評價人一人又ハ二人ヲ任ス可シ○評價人ハ治安裁判役ノ面前ニテ擄ヲ為ス可シ

第九百三十六條 封印除去ノ調書ニハ左件ヲ

記ス可シ

第一 其封印除去ノ日附

第二 封印ノ除去ヲ求メタル者ノ姓名職業其真ノ住所其別段擇ミタル住所

第三 封印ノ除去ヲ許ルス言渡書ノ大略

第四 第九百三十一條ニ記シタル呼出狀ノ大略

第五 管係アル數人ノ出席ヲ為シタル事及ヒ其申述ヘタル諸件

第六 證書人或ハ評價人ヲ撰ミ又ハ之ヲ任シタル事

第七 封印ニ變更シタル事ナキ時ハ其封印ヲ真正ナリト認ムル事若シ又封印ニ變更シタル事アル時ハ其變更シタル模様但シ其變更シタルアル時ハ其旨ヲ

訴へ出ス可シ

第八 隠匿シタルノ疑アル物件ヲ探索スル
訴へ並ニ其探索ノ上其物件ヲ見出シタルヤ否ノ事及ヒ其他裁判ス可キ種々ノ訴訟

第九百三十七條 封印ハ目錄ヲ記スルニ從テ次第ニ之ヲ除去ス可シ但シ此場合ニ於テハ其度毎ニ再ヒ封印ヲ為シ置ク可シ
第九百三十八條 同種類ノ物件ハ之ヲ合同シ其順序ヲ逐テ次第ニ目錄ニ記入ス可シ但シ

此場合ニ於テハ其度毎ニ再ヒ封印ヲ為シ置ク可シ

第九百三十九條 死者ノ財産中ニ其遺物ニ非スレテ他人ニ屬ス可キ物件又ハ書類アル時ハ之ヲ其真ノ所有者ニ還ス可シ若シ又即時ニ之ヲ還ス事ヲ得スレテ別段其模様ヲ書留メ置クノ必要ナル時ハ封印ノ調書ニ之ヲ記入ス可シ之ヲ目錄ニ記入ス可カラス
第九百四十條 若シ封印ヲ除去スル前又ハ之ヲ除去スル間ニ封印ヲ為ス可キノ原由消散

スル時ハ別段目録ニ其封印ヲ為シタル財産ヲ記入スルヲナクシテ其封印ヲ除却ス可レ

○第四章 死者財産ノ目録書

第九百四十一條 死者ノ財産ノ封印ヲ除去セ
ント求ムルヲ得可キ者ハ亦其財産ノ目録
ヲ記スルヲ求ムルヲ得可レ

第九百四十二條 其目録ハ左ノ數人ノ立會ニ
テ之ヲ記ス可レ

- 第一 死者ノ配偶者
- 第二 死者ノ最親近ノ遺物相續人

第三 死者ノ遺囑贈遺ノ證書アル時ハ其
遺囑贈遺ノ管理者

第四 死者ノ財産ヲ生存中ノ贈遺トシテ

受ケタル者又ハ死者ノ財産所有ノ權或
ハ其財産ノ入額所得ノ權ノ全部ヲ遺囑
ノ贈遺トシテ受ケタル者又ハ其別段指
定メサル一部ヲ遺囑ノ贈遺トシテ受ケ
タル者五「ミリアメートルノ距離内ニ住
スル時ハ之ヲ呼出シタル上又ハ呼出シ
テ猶出席セサル上若シ此等ノ者ノ中ニ

テ五「ミリア」ト「トル」以外ノ場所ニ住スル者數人アル時ハ其中ノ出席セサル者ノ名代人トシテ初告裁判所ノ上席人ヨリ證書人一人ヲ任ス可シ

第九百四十三條 死者ノ財産ノ目錄ニハ通例

證書人ノ面前ニテ記スル所ノ書面ニ記ス可キ諸件ノ外更ニ左件ヲ記ス可シ

第一 目錄ヲ記スル「」ヲ求ムル者立會ノ為メ出席ヲ為ス者出席ヲ為サル者其出席セサル者ノ名代人タル證書人評價

人等ノ姓名職業住所並ニ出席ヲ為サル者ノ名代人タル可キ證書人ヲ任スル裁判所ノ上席人ノ言渡ノ旨

第二 目錄ヲ記スル地ノ名

第三 財産ノ模様並ニ其真正ナル評價

第四 金銀器ノ種類性合量目

第五 貨幣ノ種類分量

第六 書面類ハ初メト終リトニ番號ヲ附

シ證書人一人其書面類ニ姓名ノ手署ニ代用スル横線ヲ畫シ又商業ニ管シタル

簿冊アル時ハ其模様ヲ證明シ又其各葉ニ番號ヲ附シ且横線ヲ畫シ又其紙ニ割白アラハ其剩白ニ線ヲ引ク可シ

第七 死者ノ人ヨリ物件ヲ得可キ權利ノ證書及ヒ人ニ物件ヲ渡ス可キ義務ノ證書ノ模様

第八 目錄ヲ記スル前ニ物件ヲ預リタル者又ハ其物件アル家屋ニ住スル者決シテ其物件ヲ竊取シタルヲナク又他人ノ之ヲ竊取シタルヲ見知シタルヲナキ旨

ヲ證スル為メ其目錄ノ成就スル時為ニタル誓

第九 別段道理アル時ハ動産及ヒ書面類ヲ管係アル諸人ノ協議ニテ定メタル者ニ預クルヲ又之ヲ協議セサル時ハ初告裁判所ノ上席人ノ任シタル者ニ之ヲ預クル事

第九百四十四條 若シ目錄ヲ記スル時ニ故障ヲ申述フル者アル時又ハ夫婦共通ノ財産或ハ死者ノ遺物財産ノ支配及ヒ其他ノ事ニ付

キ求メヲ為ス者アリテ其他ノ者其求メ
 ヲ承諾セサル時ハ證書人双方本人ヲシ
 テ初告裁判所ノ上席人ニ訴出シ至急吟
 味ノ法式ヲ以テ其裁判ヲ受ケシメ又證
 書人初告裁判所所在ノ縣内ニ住スルニ
 於テハ其証書人自カラ初告裁判所ノ上
 席人ニ至急吟味ノ法式ヲ以テ裁判ヲ受
 ク可キヲ求ムルヲ得可シ但シ此場
 合ニ於テハ其上席人其言渡ノ旨ヲ目錄
 ノ調書ノ末ニ附記ス可シ

辻 士革 校

佛蘭西訴訟法七

佛蘭西訴訟法七

卷二 七 部 首

